

新年度スタート！

正しい救急車の利用方法と応急手当を知ろう

《増え続ける救急出動》

東京消防庁における救急出動件数は、依然として年々増加し続け、平成30年中の救急出動件数は818,100件（速報値）と、救急業務を開始した昭和11年以来、過去最多の件数となり、今後さらに増え続けると予想されます（図1参照）。



年間出動件数(平成26年～平成30年) ※平成30年のみ速報値

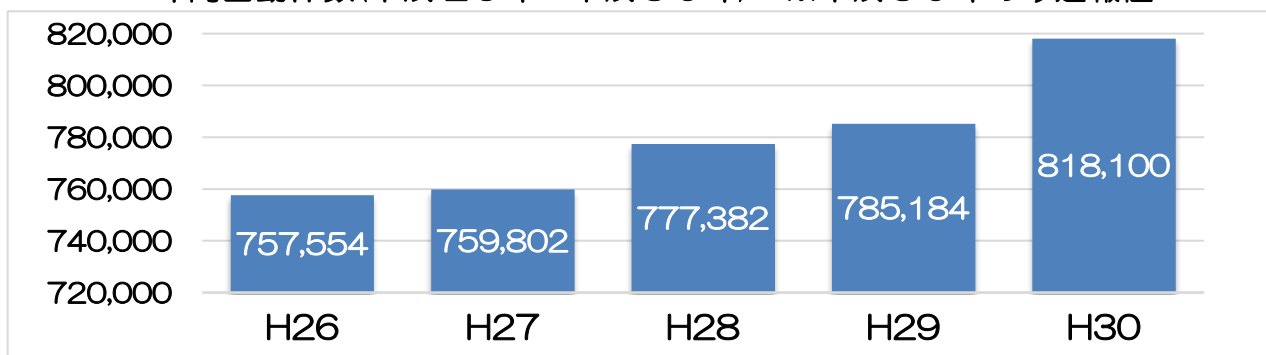


図1

《救急隊の到着時間》

東京消防庁では、119番通報で救急車の要請を受けると、対応可能な最も近くの救急車を出動させています。救急要請が増加すると近くの救急車が全て出動中となり、遠くから救急車が出動することで、到着までに時間が必要となります。

救急車が出動してから要請場所に到着するまでの平均時間は、平成30年中は7分2秒となっています。救命曲線を見ると依然として傷病者への影響が危惧されています（図2、図3参照）。

平均到着時間(平成26年～平成30年) ※平成30年のみ速報値

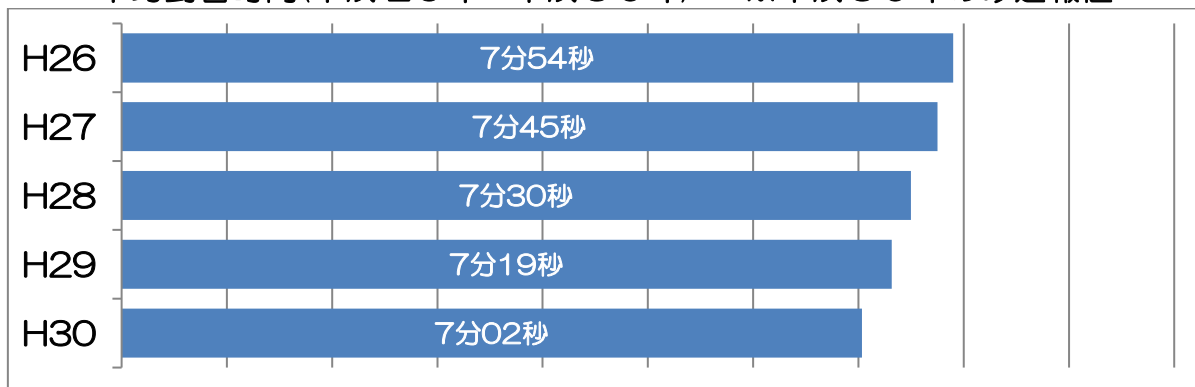


図2

救命曲線

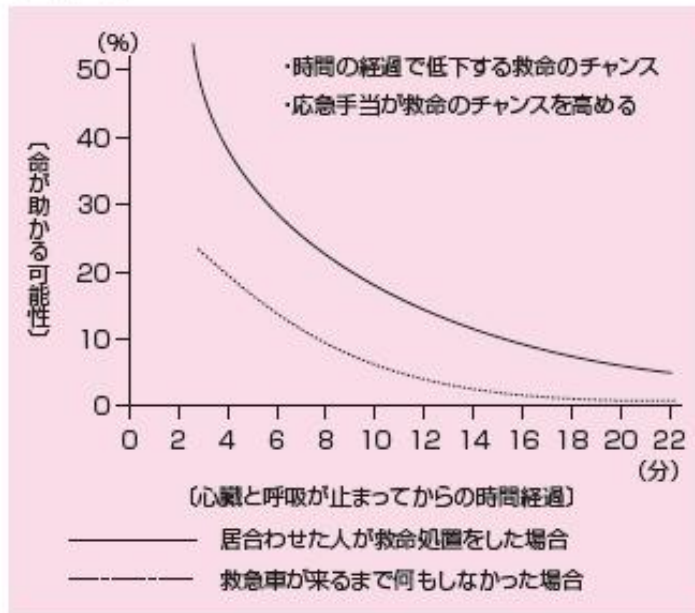


図3

《軽症者の割合》

救急隊が搬送した方のうち、入院を必要としない軽症の割合は近年増加傾向にあり、平成30年中は54.5%を占めています（図4参照）。

年間搬送件数及び軽症者率（平成26年～平成30年）

※平成30年のみ速報値

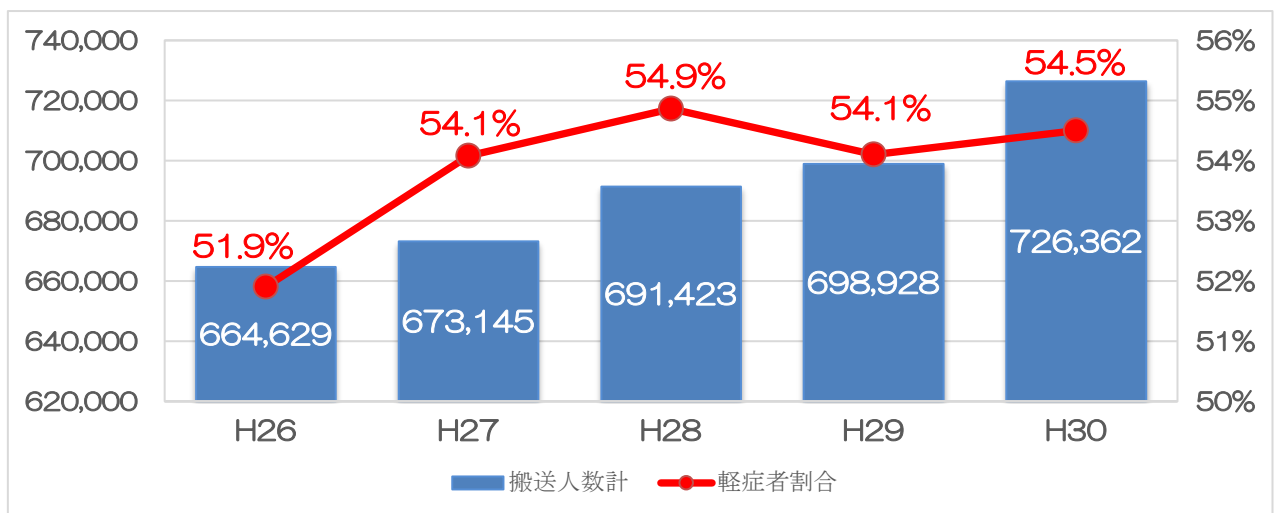
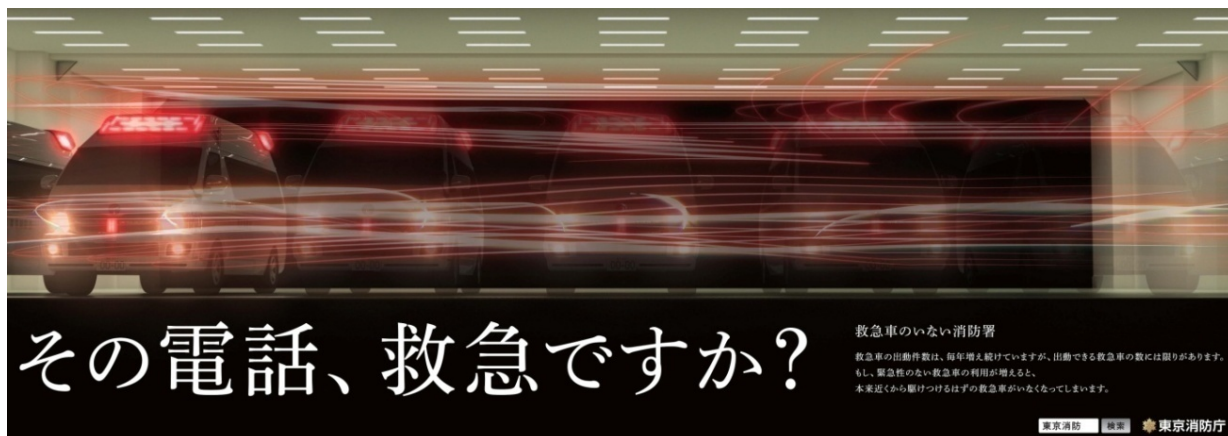


図4

その電話、救急ですか？

アンケート調査の結果では、救急車を要請する理由として、「生命の危険があると思った」など、緊急性がある理由が多い反面、「交通手段がなかった」など緊急ではない理由も見受けられました。このような状況が進むと、救急車の到着が延伸し、救えるはずの命が救えなくなる危険性が高まります。

そして、もしかしたら、その一人があなたかもしれないのです。



救急車の数には限りがあります

「あなたやあなたの大切な人が倒れた時、救急車を呼んだのに、なかなか来ない・・・。」その時にはじめて気づくのでは、間に合いません。

その電話、救急ですか？今一度考えてみませんか

救急車は都民が共有する貴重な財産です。その限りある貴重な財産を、本当に必要な人が必要なときに利用できるよう、救急車の適正な利用に心がけましょう。

救急搬送トリアージについて

救急隊は、傷病者に緊急性が認められないと判断された人には、同意を得て自己受診をお願いする「救急搬送トリアージ」を実施しています。救急隊が緊急性の高い傷病者に対して、迅速かつ的確に対応していくためご理解とご協力をお願いします。

このような場合は、対象となる可能性があります。

- 手や足の切り傷、擦り傷
- 手や足のやけど
- 耳や鼻の異物
- 鼻出血
- 皮膚の発赤、かゆみ
- 眠れない、不安、さみしい



〈やけど〉



〈鼻出血〉



緊急性が認められない場合自己受診をお願いします。

（必要に応じ、診療可能な救急医療機関、東京民間救急コールセンターや東京消防庁救急相談センター等をご案内します。）